

給湯器製造の廃材を再資源化

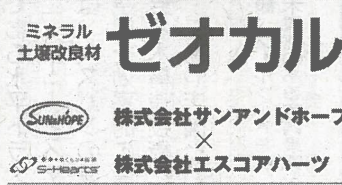
ミネラル土壌改良材ゼオカル販売開始

ノーリツ

ノーリツ(神戸市、竹中豊之社長)の特例子会社であるエスコアハーツと、農園芸のWeizol(福岡市、金尾佳文社長)が、給湯器製造の廃材を原料とする「ゼオカル」を共同開発した。10月14日から、全国ホームセンターでの販売と農家への直販を開始。さらに、来春からはインターネット販売も予定している。

エコジョーズなど、需要が拡大するなか、ノーリツ製の高効率給湯器には、ガス燃焼の過程で発生する弱酸性のドレン水を中和する役割を持つ中和器が搭載されている。ノーリツはこの中和器を、エスコアハーツの障害のある従業員が働く生産ラインで製造している。この製造過程で、中和器内部で中和剤として使用される寒水石の約11%が規格外として廃棄されている。カーボニートラル社会に向けて高効率給湯器の

共同開発商品



株式会社サンアンドホープ × 株式会社エスコアハーツ

ミネラル土壌改良材ゼオカルを販売開始

鉱物のゼオライトを組み合わせたことで、保水性と通気性を向上し、養分の保持力強化など土壌環境を総合的に改善する効果を実現した。エスコアハーツとサンアンドホープは、障害者雇用の促進と安定に積極的に取り組んでいる。

この課題を解決するため、エスコアハーツとサンアンドホープは規格外の寒水石を再資源化し、ゼオカルを共同開発した。寒水石の原料である炭酸カルシウムは、植物の成長に必要なカルシウムを豊富に含み、酸性化した土壌のpH調整効果がある。これに天然

る。ゼオカルのプロジエクトではエスコアハーツが寒水石の選別・品質チェックを担い、サンアンドホープが商品の製造・包装・品質管理から商品企画・販売まで担当している。

関西プレカッ ト協議会(松島章副会長)は10月20、21の両日、山口県での視察研修を実施した。14人が参加し、大手プレハブメーカーの工場やプレカッ ト工場を視察した。

今回視察した、みうら(山口県周南市、三浦崇嗣社長)は、プレカッ トで防秋産業(同防府市、秋山泰三社長)と連携、構造材・特殊加工を防秋産業、羽柄材加工をみうらが担当する。ともに営業を行い、防秋産業がプレカッ トの需要を

三浦敏裕みうら取締役相談役(右から2人目)から事業について説明を受ける

三浦敏裕みうら取締役相談役(右から2人目)から事業について説明を受ける

作家の工場もあり、大手ハウスメーカー向けの仕事を一方、ホテル、店舗の内装材、建具などの製作と取り付けなどを行う。三浦敏裕みうら取締役相談役は「当社は創業98年目、一昨年は創設を機に事務所を木造で建て直した。LOVE COMPANYを掲げている。梱包材の製材から始まり、自製型企業を目指し、木材の高付加価値化、消費者への密着をテーマに取り組んでいる」と事業を紹介。「プレカッ ト事業参入時に松島副会長に大変お世話に

KAMIYA (谷忠重社長)は、扉の面材に、色を塗ったり壁紙を貼る室内ドアを仕上げる。KAMIYAは、扉の面材に、色を塗ったり壁紙を貼る室内ドアを仕上げる。KAMIYAは、扉の面材に、色を塗ったり壁紙を貼る室内ドアを仕上げる。

長野県グリーンボンドに投資

タカノ(長野県上伊那郡、鷹野雅夫社長)は、長野県が発行するグリーンボンド(2025年度第3回公募)への投資を決めた。同債券への投資を通じて、脱炭素社会の

野口相談役から感謝状を贈られる廣瀬さん(右)

野口相談役から感謝状を贈られる廣瀬さん(右)

月には口唇部の手術を受けたが、「一日一生」の気持ちで心強く仕事に励む姿を見て、周囲の人達が逆

気密測定事業への問い合わせ増加

測定ノウハウ得て事業の付加価値に

ヤマイチ

ヤマイチ(富山市、廣瀬貴志社長の新事業「気密革命」への問い合わせが増えている。気密革命は、同社が事務局を務める日本気密測定推進協会が訴求する気密測定のノウハウを、地域建材商社や施工業者に提供するもの。9月17日に事業を開始して以降、地域建材問屋や大手建材商社、建築士、板金加工業者、電気工事業者などさまざまな業態の事業者から問い合わせがあり、現時点で30件ほどが事業への加盟に向けて動いているという。

気密革命に関心をもち、気密測定は、住宅の新築や既存の断熱性能確保で欠かせない要素だが、同社及び日本気密測定推進協会の先行対応など、正確な測定ノ

ウハウの市場定着は必要に迫られている。測定ノウハウを身に付けておくことで顧客の信頼獲得につながる。ヤマイチでは、全国に加盟店ネットワーク

事業加盟には、加盟金のほか、小型気密測定器「ドルフィン2」購入費、システム利用や研修費などの初期投資が必要だが、加盟事業者は気密革命を通じて地域の気密測定依頼を効率的に受けることが可能になる。また、加盟事業者が、気密革命を通じて自社で測定も力を入れていく。ホームページからの問い合わせを受け付けており、必要に応じて顧客の機能を発揮している。

国際シンポジウムでPR

フルタニランバー(石川県金沢市、古谷隆明社長)は、付加価値の高い能登ヒバの利便性を高める一環で、楽器メーカーと連携し、能登ヒバを用いた楽器作りを進めている。ミュージシャンが音楽イベントで演奏する機会も徐々に増えている。9月17日に東京都内で開かれた国際シンポジウムでは、音楽の都ウィーンからの参加者へ、能登ヒバを使ったギターを通じて楽器用材としての可能性をPRした。

古谷社長(右)と上村氏が能登ヒバを使ったギターを通じて日産木材の魅力を紹介した

古谷社長(右)と上村氏が能登ヒバを使ったギターを通じて日産木材の魅力を紹介した

上村氏は、自身が作詞作曲した林業・木材事業者応援ソング「森で愛ましよう」を演奏。10月12、13の両日には、全国森林組合連合会が東京都内で開いた森林の仕事パークでもトークショー&弾き語りライブを行い、その音色を多くの人に伝えた。

合板一筋53年、廣瀬太郎さん感謝の会

丸増ベニヤ商会(東京都、増澤重樹社長)の廣瀬太郎さん感謝の会が26日の75歳の誕生日を期に勇退することになり、10月29日、有志が長年の謝意を込めて「廣瀬太郎さん感謝の会」を東京都内のホテルで開いた。参加者では最年長者である共

廣瀬さん(右)と上村氏が能登ヒバを使ったギターを通じて日産木材の魅力を紹介した

廣瀬さん(右)と上村氏が能登ヒバを使ったギターを通じて日産木材の魅力を紹介した

廣瀬さんは「このように身に余る会を設けてもらい、こちらこそ感謝の念でいっぱい。さあ、これから何をしたいか、わが人生から合板への思いが離れることはない」といつまでも合板人生を貫き通した男の言葉だった。(東京)